



江湖新聞

第廿號



定價八分

西垣文庫 特  
 文庫 10  
 7287  
 20



文庫10  
7287  
20

江湖新聞第廿号

慶應四年戊辰五月十八日

横濱新聞紙の抄録

洋紙の引替お場之義ニ世横濱西ノ外ニコシユル江ノ文通  
付之般大坂表に於て之通解を了す  
洋紙の引替お場之義ニ世横濱西ノ外ニコシユル江ノ文通  
付之般大坂表に於て之通解を了す

嘗て於ても同様に多我國人にてお觸と存にる右觸達の日

根ハ進下下を止む事ハ貴人トト布告と成りし事ハ  
慶應四年四月報

寺修 陶 齋

井 冥 高 右 之 門

西 垣 文 庫

五 朔 三

二 六

右に通り先述の交通より當節漸く洋報直段お入り以來  
お通達を換得しすものなく大支のとなり

○英國コンシールの簡書

日本役人より呈遞する由用狀書按別紙に通り英人にも觸達し  
右に軍器賣捌方より多條約第十四條通り日本政府より外人に  
而已る賣渡しの也

英政府五月七日

英國コンシール所

別紙書按

當地於て軍器賣捌方の政府役人の士官同道の事以賣渡す  
格の外私に買取らる事あり外に商人等との名案を承知

いし賣渡し以て後におつとる事多し其不問合せおしき  
なり

右に酒<sup>その</sup>背<sup>き</sup>切<sup>り</sup>別有く軍器賣買の事ゆとの事にて於てハ嚴守  
西側で中より生れ遅滞する事不為人にも觸達し是より後ハ

英政府四月七日

寺島通海印

井上高徳印

○

千人隊の頭より函を以て付し上書付

陸軍奉行並

東山道総督府より兵部へお達有しは有大名小路因州屋敷に

在甲斐國所直、柳田春舟案内、西丸の兵出、大徳督府  
長州軍謀方丈村増以、引合の要令、投所、續本三等、  
相分、ゆりく

朝廷の帰順者ハ、朝廷に命、種懐、致居、そのハ徳川家  
の家来といふ、脱走、木口、ゆり、或ハ暴動、及び若ハ、  
義、有、定、録、手、人、隊、之、義、ハ、二、心、之、書、面、之、也、也、

朝廷に、命、ゆ、る、者、是、之、中、字、ゆ、る、私、共、義、之、二、百、年、来、  
徳川氏之、恩、施、之、蒙、り、殊、之、前、年、別、院、扶、持、之、以、徳、所、在、也、  
忘却、仕、主、家、之、兄、放、一

朝廷の濟直、其、信、義、之、何、分、之、疑、義、之、極、仕、以、何、年、是、迄

之、通徳川家、の、其、公、仁、徳、此、後、ハ、備、之、哀、憐、之、歎、且、二、心、之、  
書、面、之、也、也、

朝廷の對、以、存、向、以、仕、万、事、之、中、迄、之、心、得、之、者、其、也、義、之、有、之、  
以、後、和、答、の、要、玉、極、以、む、之、義、承、知、以、了、以、後、中、字、別、院、外、官、  
之、以、同、引、合、之、中、字、存、向、以、依、之、此、後、第、一、教、以、而、中、上、以、上、

五月八日

歩兵隊並格

千人隊之取

大所番格

河野伸以命

中村在京

歩兵兵團後隊之助方

石坂終之助

日勇國後勅方

山中綿卷身

右之通子人隊頭中出の間此後此届中以上

辰五月

陸軍奉行並

○

高田廣重候より出此届

式部大輔領分誠後國青海宿と申出領分曉有為警備  
善人教是出並右同所は加州柳蔭州柳紀州柳比人数も善  
謀下は善在中内分分配一同在固め罷申候先方人投脱走

人之内は善介戦事も及び申出候摸拍は善有加州柳  
比人数初め候は後判いしは善お成女謀格は善精は善折  
善有、愛国四月廿七日朝六の時候は善お始は混雜は善計  
は善は善大砲打始申付双方各候は善接戦は及び申出物取未  
討死候は善獲進は善誠は善先不取敢此後此届中以上

五月三日

神原式部大輔家来

圖傳但見

○同人より再應より出此届

神原式部大輔家来より式部大輔領分誠後國青海宿辺

多戦争之義去ル之日以而中上之軍於又進之諸軍已も操  
 結由因同四月廿六日昼後ノ小谷谷口の方以縁傳尾州  
 長州信吾藩未之人数数義武ア大輔重假林原若狭一之  
 人数雪時と中上之義軍之及以先方人数退去、お願以付  
 諸軍追之縁傳由右方口以向以武ア大輔人数討死手  
 負尤之通之也

討死	物頭	壹人
同	土分	壹人
同	足輕	貳人
手負		士分以下 小者とも 於武人

右之通在雨より中誠以特委細之義之在雨より中誠以分  
 軍上之先此後以而中上以上

五月十一日

林原武ア大輔奏東  
 圖由個見

五月三日大田原落城之至狭丸約二万石 黒羽城大園犯者約二万石  
 之退還のより新報を以之れども何れの手より攻寄せし  
 一番せん習隊五百人會津藩工友等と力を併せ攻寄せ  
 しては傳せり事寧のなるべし

○  
先月廿七日附英妙りの来状に曰く英羽二州の諸藩  
會時慶謝罪一条有衆議有之由云秋田弘前為藩之  
議倫至極其委難付多分刊藩於ては其論之隨以向事  
所至極め下中在去有議論ハ如何ある類意ハ其刊藩  
重役之外深く秘し之を懐き居

去ル十五日東叡山ニ始末ハ中外新聞に記し別号として  
之を刊し其故に我新書ハ其意を載せ居

